

## リハビリテーション課の研修制度について

今回は、当院における院外の研修制度を中心に報告したいと思います。研修だけに留まらず、院外での学びをどのように当院の療法士が行っているのかをご紹介します。

今回も、大好評を頂いている対談形式でお伝えします!!インタビューは聞き上手の名田STです。話し手は東OTです。



名田 ST：当院では若いスタッフが多く、技術や知識を病院の外からも学びたいと考えている職員が多いと思います。当院における院外の研修制度について教えてください。

東 OT：当院では、すべての職員が一定の技術や知識を得ることが出来るようにと、主に各所属団体の協会が主催する勉強会や研修会に参加できます。年間のスケジュールが予め決められており、その勉強会や研修会においては病院が一部負担してくれます。参加後に伝達講習を行い、他の職員も学ぶ機会を得ることができるという形ですね。

名田 ST：非常にありがたい制度ですね。私も学会の聴講で何度か行かせて頂き、とても勉強になりました。伝達講習をしなければいけないと思いながら参加するのは、自分自身の学びに繋がりますね。池上彰さんも「人に伝える気持ちで勉強すると理解が深くなる」と言われていましたが、まさにその通りですね。

制度の話に戻りますが、年間のスケジュールが決められていると言われていましたが、自分で行きたい研修会や勉強会に関してはどうでしょうか。

東 OT： 個人で参加する分には、休みの日などに参加するのは問題ありません。また、事前に上司に相談してリハビリ課として必要性があり、業務上の調整がつけば、行かせて頂くことも出来ると思います。

名田 ST：なるほど。私たちが専門職として働けるように技術や知識を得る機会を頂いているわけですね。ありがたいことです。話は少し変わりますが、東さんは大学院でも学ばれていますよね。常勤で病院勤務しながらどのようにされているのですか。

東 OT： 私は入職と同時に大学院に入学しました。就職活動時に大学院と臨床業務を両立できる場所はないかと探していました。大学院の指導教員にそのような両立が可能な病院がないかを相談したところ、当院を紹介して頂きました。修了生に金尾課長がいらっしゃったからだと思います。臨床業務と大学院での研究を両立している先輩がいるということで心強く感じ、前例があり行いやすかったです。

名田 ST：確かにそれは心強いですね。しかし、二足のわらじですから、大変なことも、もちろんありますよね。

東 OT：そうですね。発表や締め切りの提出物などが重なれば大変なことはありますね。普段は修士課程だと私たちの大学院では1年目のみ月曜日の午後から授業で、ゼミは隔週の土曜日の月2回なので、かなり社会人に優しいカリキュラムのために、なんとか大丈夫ですね。それでも、休みの調整など職場の人に迷惑をかけていますが…。また、私の場合は臨床研究ですので、患者さんをお願いをしてデータを収集させてもらわないといけなくて、ここでも職場の皆さんには、すごく協力して頂いています。感謝しかありません。



名田 ST：逆に大学院に入って良かったなあと思うことはありますか。

東 OT：自分たちが専門職として働いていく覚悟やその必要性を感じられることかもしれません。病院で勤務していると、どうしても専門職というより労働者という側面が強くなってしまうことがあると思います。そんな時に、大学院で先輩方や先生方の話を聞いていると、療法士としての専門性を高めてアピールしていかないといけないなあと心を改める機会になります。そんな、カッコつけたことを言っても、まだ何もできていないのですが…気持ちだけは！という感じです。

名田 ST：確かにそうですね。専門性とかそういったものが、私たちがこの仕事を選んだきっかけのようなところもありますしね。それを改めて感じられる環境は良いですね。最後にズバリ、当院では、大学院と両立して働きやすいですか。

東 OT：働きやすいと思います。もちろん、病院ですがから臨床業務が優先です。しかし、臨床データを取る環境も整っていますし、協力して下さる方もいらっしゃいます。ありがたい限りです。

名田 ST：今日は、いろいろとありがとうございました。それでは、頑張ってください。

